「下松市『人権』を考えるつどい」

実践発表

全校生徒で作成した「人権カルタ」を使い、「久保中学校 インターネット人権宣言」を地域に広げる実践。代表生徒 10 名が発表しました。

講演

木久蔵流 ～笑うが一番～
笑いを通じて人権を考える

落語家 二代目 林家木久蔵 氏

講演の中で、下松市の「なぞかけ」の掛け合いがありました。

- 「笠戸大橋」とかけて、「おまわりさん」と解く。そのこころは「けいかん（警官・景観）がよい」（林家木久蔵）
- 「下松市の海」とかけて、「ぼくのなぞかけ」と解く。そのこころは「あっ、ひらめいた（ヒラメ・閃く）！」（立川生九郎）

「いつもより多めに笑いましょう。笑いには効能があります。だから、つまんないことでも、自力で笑いましょう（笑）」

K ビジョンホールは、5 分を待たずに常に笑いに包まれています。木久蔵さんの軽妙な語り口と間、「オチ」が、参加者を「笑うが一番」の世界に引き込んでいきました。例えば、**「親（木久扇）からもらった負の遺産。親子そろって胃腸が弱いんです。遺産（胃酸）相続。」**

笑いの効能

人権は、「生まれながらにもっている、人間らしく幸せに生きる権利」。笑いは、感情を豊かにし、幸せな気分に浸らせます。また、NK 細胞を活性化させ病気への耐性を高めます。

落語家

落語家には、「見習い」「前座」「二ツ目」「真打ち」という階級があります。「見習い」と「前座」は、自分を傍らに置き、年中休みなく師匠のために働く。師匠の気持ちを掴むために心を砕く。この間に、気遣いや気働きを徹底的に学びます。このことが、「芸」に生きてくるのです。

父、初代木久蔵（木久扇）師

88 歳の今でも一日 3 席をこなす、底なしの笑顔が印象的な木久扇さん。実は 2 度の大病を患っています。
その後、幸せについてこう言われたそうです。
「何気ないことを、朝から晩まで、普通に過ごすことが幸せだ」



高座

「初天神」
父親と金坊の掛け合いの妙に、笑いが起こります。父親が団子の蜜を舐める仕草には、拍手が起こります。「オチ」の後は、拍手が長く響いていました。

「笑い」を通じて幸せ感に浸り、「人権」について考えさせられる時間でした。